

英文學評論

第 XIX 集

- 中世英詩における春の概念 佐々部英男
ラムの『定年退職者』 山崎正雄
『闇の奥』(2) 竹森修
ウルフの最後の小説(1) 増山学
現代における創作の問題 渡辺久義
——T. S. エリオットとジョイス——
『ジョヴァンニの部屋』について 酒井健三
——ジェイムズ・ボールドウィンの実験——
MTというもの 松木泉
英語科教科教育法の問題点とその解決案 安藤昭一

京都大学教養部英語教室

目次

中世英詩における春の概念……………	佐々部英男……………(一)
ラムの『定年退職者』……………	山崎正雄……………(一六)
『闇の奥』(一)……………	竹森修……………(二六)
ウルフの最後の小説(一)……………	増山学……………(七)
現代における創作の問題……………	渡辺久義……………(八四)
——T・S・エリオットとジョイス——	
『ジョヴァンニの部屋』について……………	酒井健三……………(一〇六)
——ジエームズ・ボールドウィンの実験	
MTというもの……………	松木泉……………(一二四)
英語科教科教育法の問題点とその解決案……………	安藤昭一……………(一—三〇)

編集後記

象牙の塔とは昔のことで、今日では、研究と広義の實際生活とは切り離して考えることができなくなった。そこでわれわれにとつて、大事なことは、まず襟を正して、われわれの主体性を確立し、しかる後、これに基づいて、研究と生活を行つてゆくことだろう。そこではじめて、研究と生活が調和するであらう。もし、研究に対する姿勢と生活とが乖離している場合は、一種の二重人格者と呼ばれてもいたし方ないのではあるまいか。要は元を正すにある。

さて、本誌に密接な関係をもっている教室活動としては、十月、渡辺氏の「現代における創作の問題」、十二月、蜂谷氏の「ドクター・フォースタスについて」(英語発表)の教室談話会が行われた。後者は、松木氏の「言語の自動処理」と共に、教養部紀要『人文』第Ⅻ集に載せられる。

次に、教室員の動静については、昨年十二月、角倉氏が教授に、一月、喜志氏が助教授にそれぞれ昇任された。また、教養部発足当初より在任、温雅の風格をにじみ出しておられた山崎氏は、この三月で定年退官される。既に「ラムの定年退職者について」という、滋味溢れる記念講義をすまされ、名誉教授の称号が与えられた。また、昭和三十八年末以来、二年余、LL運営にも協力しつつ、英語教育に熱心に従事して来たクライントン氏もこの三月帰英する。両氏の御健在を祈りたい。

(T・Y、Y・O)

英文学評論 第十九集

非売品

昭和四十一年三月二十日 印刷
昭和四十一年三月三十日 発行

編集者

京都大学教養部英語教室

代表者 大浦 幸男

印刷所

内外印刷株式会社

京都市下京区西洞院七条下ル

発行所

京都大学教養部英語教室

京都市左京区吉田二本松町

REVIEW OF ENGLISH LITERATURE

Volume XIX March 1966

CONTENTS

- Spring in Old and Middle English Poetry *Hideo Sasabe*
On *The Superannuated Man* *Masao Yamazaki*
Joseph Conrad: *Heart of Darkness* (2) *Osamu Takemori*
The Last Novel of Virginia Woolf (1) *Satoru Masuyama*
'Creation' in Modern Literature *Hisayoshi Watanabe*
 —An Essay on T. S. Eliot and James Joyce—
On *Giovanni's Room*: *Kenzo Sakai*
 Some Experiments on Literature by James Baldwin
On What Is Called MT *Izumi Matsuki*
How to Teach "The Teaching of English": *Shoichi Ando*
 Problems and Some Suggested Solutions
-

ENGLISH DEPARTMENT
COLLEGE OF LIBERAL ARTS
KYOTO UNIVERSITY